

会議録

会議の名称	令和2年度第2回加東市総合教育会議
開催日時	令和2年11月16日（月）午前10時から午前11時25分まで
開催場所	社公民館 2階 研修室
議長の氏名（市長 安田正義）	
出席及び欠席委員の氏名	
<出席委員>	
・市長 安田正義	・教育長 藤本謙造
・教育長職務代理者 田中寿一	・教育委員 藤本洋二、藤原哲史、後藤純子
<欠席委員>	
なし	
説明のため出席した者の職氏名	
なし	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
・副市長 岩根正	・教育振興部長 田中孝明
・こども未来部長 広西英二	・こども未来部参事兼学校教育課長 後藤浩美
・教育総務課長 菅野勇一	・学校給食センター所長 簗田順子
・生涯学習課長 長田徹	・中央図書館長 田中美紀子
・こども教育課長 壺井初美	・小中一貫教育推進室長 柴崎俊之
・発達サポートセンター所長 片嶋美紀	・教育総務課副課長 徳岡あけみ
・まちづくり政策部長 小林勝成	・企画政策課長 下岡正裕
・企画政策課副課長 山本幸平	・企画政策課主査 白井隆寛
1 議題	
(1) 第2期加東市教育大綱（案）について	
(2) 今後のICT教育について	
2 資料名	
・資料No.1 第2期加東市教育大綱（案）	
・資料No.2 今後のICT教育について	
3 会議の結果及び経過	
⇒別紙「令和2年度第2回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過」のとおり	

(別紙) 令和2年度第2回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過

発言者	会議の結果及び経過 / 発言内容
議長	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 協議 (1) 第2期加東市教育大綱(案)について</p> <p>最初に、第2期加東市教育大綱(案)について協議をいただきます。</p> <p>加東市では、平成28年7月22日に加東市教育大綱を策定し、教育委員会と連携しながら様々な教育施策を展開しています。今年度で現行の教育大綱の対象期間が終了しますので、令和3年度以降加東市で取り組むべき教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策についての基本的な方針を示す第2期加東市教育大綱を策定したいと考えています。今回の会議では、大綱案を示し、内容について意見を頂戴したいと思います。</p> <p>まず、事務局の説明を求めます。</p> <p style="text-align: center;">資料No. 1に基づき事務局から説明</p>
議長	<p>ただいま、第2期加東市教育大綱案について事務局から説明をしました。この協議事項について、意見、質問等をいただければと思います。</p>
委員	<p>第1期教育大綱の取組を踏まえ、学校教育から生涯学習まで加東市の教育の実態と取り組むべき教育課題を明確にした方針が示されていると思います。また、第3期加東市教育振興基本計画案との整合性も取れていると思います。以前も話をしましたが、こういうものは策定してもなかなか生かされることがあるのですが、小中一貫教育の推進、教育環境の整備、多様な学習機会の充実などの取組は現在も進められており、第2期に向け着実に前進していくと感じています。</p> <p>私は、子どもたちには生きる目あてを持ち、力強く歩いてほしいですし、そういう子どもたちを育てることが一番大切だと感じています。そのためには、大綱案にも挙がっているように、夢や志を持つことがとても大切になると思います。加東市の特色を大綱の中にも盛り込んでいかなければいけないのですが、基本方針I②のところで「夢や志を持って挑戦する力の育成」と挙げられているのは、非常に望ましいかたちであると思います。</p> <p>①の「確かな学力」の育成、③の「豊かな心」の育成、④の「健やかな体」の育成、こういった教育の知・徳・体の3つの柱がある上に、子どもたちの夢や志を持って挑戦する力というものが育成されるので、順番として、①、③、④があり、その後に②が来るべきだと思うのですが、逆に、夢や志を持って挑戦する子どもたちを育成したいという思いを強調するために、2番目にあってもいいと思いました。</p> <p>少し気になったのは、子どもたちの夢の中身です。中学生がどのような仕事に就きたいのかというと、1番がITエンジニア、2番がゲームクリエイター、3番がユーチューバー、これらで60%以上を占めている。高校生でも似たようなかたちになっている。大綱案の基本方針I②の中で、加東を愛する心と連続性のある教育活動が挙がっているのですが、キャリア形成の充実と、社会に触れる機会の充実というのも重要になってくると思います。今の子どもたちは、昔と違って、親や身近な人が働く姿を目にする機会が少なく、どうしても描く夢や将来の姿が、</p>

<p>議長</p>	<p>ITエンジニアやゲームクリエイター、ユーチューバー等になってしまう。将来、社会を支えていく人材に子どもたちが育っていくように、ぜひ、基本方針I②の中にキャリア教育を位置づけ、社会に触れる機会の充実を、もう少し強めに出していただきたいと思います。ものづくりに携わる人たちの姿を見て、後を継いでいきたい、また、関わっていききたいという子どもをつくっていくよう、大綱に入れていただきたいと思います。</p> <p>夢と志との違いについて、私は、夢というのは、あくまでも自分自身のもの、一方で、志というのは、他者のため、社会のために自分がどんな良い影響を与えられる人間になっていくのか、そういう捉え方をしております。</p> <p>先ほど委員の話の中でもあったように、キャリア形成の充実、社会に触れる機会の充実というのは、本当に大事な部分だと思います。いろいろな会議に出ると「今の若い人たちは、志がない」ということをよく言われます。また、いろいろな教育の分野で、「志」ということを使ってほしいということも聞きます。これは決してイデオロギーとかそういうものではなく、他者により影響を与える、他者を幸せにできる、そういう人材を育てていくための1つのワードという捉え方をしています。そういうことも含め、ご指摘いただいた部分は、精査をしていきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>前回の会議でもお願いしていた、大綱案と、別に検討協議をしている第3期教育振興基本計画案との整合性については、十分図られていると思うので、今後は、この内容で進めていただきたいと思います。</p> <p>先般、社小学校の公開授業に行きました。その中で、例えばクラゲチャートとか、ウェビングマップとか、フィッシュボーンとか、ピラミッドチャートとか、いろんなチャートを授業の内容に応じて取り入れ、子どもたちに分かりやすい授業をされていて、先生方も工夫されていると感じました。児童数が多いですが、児童の皆さんは落ち着いて授業に取り組んでおられました。</p> <p>それから、次の協議事項にも関係しますが、国語の授業では、電子機器を使う機会が若干少なかったかのですが、理科の授業では、一人1台のタブレットを活用して、子どもたちが積極的に取り組んでいる状況を見ました。タブレットなど電子機器の活用を積極的に取り組まれていて、子どもたちもそういうものを活用しながら授業を受けると分かりやすいと感じました。</p>
<p>議長</p>	<p>大綱案2ページで、一人1台のタブレット端末を整備しているが、教員のICT活用指導力をより一層向上させることが課題であるとしている。これは、ある程度はできているが、まだまだ高めていく必要がある状況にあるという理解をしています。</p> <p>それから、先ほど委員の話の中でもあったように、子どもたちの将来就きたい職業ですが、2年ぐらい前に小学校の卒業式に出席したとき、卒業生が書いた夢をまとめて見ました。すると、我々が小学生のときにはなかった、ユーチューバーとか、ゲームクリエイターとか、職業としてそういうものもあるのかと知りました。スポーツ選手とか個性を生かした職業に就きたい、看護師とか、消防士とかいわゆる人の役に立つ職業に就きたい、そういうものもありました。</p>
<p>委員</p>	<p>学校の中で、外国人住民の子どもも多くなっており、異文化を理解する機会や、コミュニケーション能力を高める機会が、たくさんつくられていくことはとても良いことだと思います。そして、その中で自分と他人の違いや、人権について学びながら、お互いの個性を認め合い、その延長で助け合いの心が生まれていく、そして、いざというときに助け合える関係ができている、ということが大事なこ</p>

<p>議長</p>	<p>とだと思います。大綱案に「豊かな心」の育成が挙げられていることは、とても大事なことであり、良いことだと思います。</p> <p>加東市は、外国人住民の数が非常に多く、兵庫県の中でも特にその率が高いまちです。現在、外国人人口は、約1,800人で、割合で見ると、人口の約4.5パーセントが外国人住民という状況です。このことは、兵庫県でも非常に大きなことと捉えられています。兵庫県では、現在、多文化共生社会推進計画を策定中ですが、加東市は、外国人住民が特に多いまちということで、私も計画策定の委員として参加をしています。その中で、言葉でどう表現をするのかということが非常に悩ましく、「外国にルーツを持つ」という表現など、専門家も含めて議論をしています。やはり言葉というのは、意思疎通の一番大きい道具だと再認識しています。</p> <p>また、言葉を発するのが難しい人たちの思いも大事にしていかないといけません。加東市では、早くに手話言語条例を制定しましたが、当事者の方々からは、条例を制定したことについて一定の評価をいただいています。まだまだ取組が十分ではないという意見もいただいています。言語に関する課題としては、外国語だけでなく、手話についても、しっかりと取り組む必要があると思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、第2期教育大綱は、とても大切なものになるという思いを持っています。現在、社会が大きく変わろうとしているときで、人間は割とそのときの流れに流されてしまうところがあります。コロナというコロナの方に傾き、ICTといえばICTのほうに傾いてしまう流れがあると思いますが、教育大綱というのは、そういう流れに振り回されてはいけないものの一つだと思います。</p> <p>子どもは社会の流れに引っ張られやすい存在の一つで、先ほど委員の話の中でもあったように、ITエンジニア、ゲームクリエイター、ユーチューバー等、そういう職業に子どもが夢を持っているというのも、社会の流れを大きく反映していると思います。そういうことを捉まえた上で、社会の流れにも対応していきながら、教育大綱はできあがっていなければいけないと思います。</p> <p>大綱案は、そういう点ができていたと思います。1点目が、デジタル社会にどう対応するかという視点です。これから迎えるデジタル社会にどう対応していくのか。積極的に進めていかなければいけないICT教育の推進も含め、社会から求められているデジタル社会への対応を、先進的に進めている加東市だからこそ、予算もかかるとは思います。更に進めていってほしいと思います。</p> <p>2点目が、デジタル社会では担いにくいものへの対応です。大綱案の中では、夢や志であったり、豊かな心であったり、健やかな体であったり、インクルーシブ教育であったりというのが位置づけられています。デジタル社会から取り残されてしまうおそれのある、障害を持っておられる方であったり、子どもであったり、高齢者であったり、今後は、そういう部分への施策が重要になってくると思います。また、第2期教育大綱の計画期間の途中で、いわゆる後期高齢者に団塊の世代が突入するという時代を迎えます。まさに、人生100年時代を見据えた生涯学習の推進というのは、そういう部分への施策になっていきます。様々な課題ができてくるかと思いますが、教育大綱の施策も含めて対応していくことで、よりよい社会が実現される加東市になっていくのではないかと思います。</p> <p>あと、デジタルになると感覚的に体験できなくなるもので、生活に身近なものとして、お金が挙げられます。子どもは、実際にお金を持つことなくデジタルでお金のやり取りをするようになると金銭感覚がどう育つのか、そういう課題が出てくるのではないかと思います。子どもは、自分が触れたものの中から夢や希望を持つようになるので、具体的にどういう体験をさせて、どういう感覚を味あわせればいいのかということも含めて、施策を進めていってほしいと思います。</p>

議長	<p>デジタル社会、A I時代等、いろいろな言葉がありますが、先ほど委員の話の中でもあったように、流れに流されてはならないということが非常に大事なことになります。また、そういう社会であっても、子どもたちの個性は大事にしなければならぬし、個性を伸ばしていくことが教育の大きな使命ではないのかなと思います。</p> <p>それから、目の前にいる人、他者との関わり、これが大事なことだと思います。子どもたちの目の前にいる人の行いや、言動、振る舞いが大きな影響を与えたいと思います。流れの中で、デジタルや、A I等は活用しなければならぬし、活用すれば本当に便利なものですが、一方で、怖さもあるということをしつかり認識する必要があると思います。</p>
教育長	<p>私は、教育は、人が生きる本質を見極めていくことだと、逆に言うと、教育があってこそ生きるということの本質が見えてくると思います。それは、いかに自らが幸せに生きたのか、生きているのかということを考えることではないかと思えます。決して人と比べることではなく、こういったことで自分は今幸せに生きているのだということを確認し合える、そんな社会が必要だと思っています。</p> <p>当初から、人間力の育成ということをお話しさせてもらっています。少し昔の話ですが、非常に印象に残っていることがあります。人間力の戦略研究会報告書というものが出ていて、人としてどう生きるかの定義として、「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」とあり、これは、社会の中で、自立した一人の人間として力強く生きていけたとすれば幸せだということなのではないかと思えます。その構成要素として、1つ目は論理的思考や創造力などの知的能力的要素、2つ目はコミュニケーション能力、公共心、規範意識などの社会・対人関係的要素、3つ目はこれらの要素を十分に発揮するための意欲、忍耐力や自分らしい生き方や成功を追求する力などの自己制御的要素、これらを総合的にバランスよく高めることが人間力を高めることだと書かれていました。私は、これは変わらないものだと思っています。生きていくうえで、変えないといけないものもありますが、変わらないものとして、必ず根底とあるものとして見極めながら教育を進めていくということが大事だということを改めて確認できました。</p>
議長	<p>子どもの発達にとって、よい経験をさせる、よい文化に触れる、そしてよい出会いがある、こういうことが大きな影響を与えるのだと思います。そして、我々がそのことに対して何ができるのかということだと思います。子どもたちが育つ環境が非常に重要であり、そのために何ができるのかという思いで聞いていました。</p> <p>この協議事項について、ほかに何か意見はありますか。</p>
議長	<p>ないようですので、今回いただいた意見等については、もう少し時間をいただいて、精査をさせていただきます。委員の皆さんからいただいた意見等を全てそのまま第2期教育大綱に反映できるかは分かりませんが、可能な限り、反映させていきたいと思っていますので、よろしく願います。</p> <p>(2) 今後のICT教育について</p>
議長	<p>次に、今後のICT教育について協議をいただきます。 まず、事務局の説明を求めます。</p>

	資料No. 2に基づき事務局から説明
議長	ただいま、ICT教育の現状や今後の取組について事務局から説明をしました。この協議事項について、意見、質問等をいただければと思います。
委員	<p>あつという間に子どもたちに一人1台のタブレット端末を持たせるような流れとなり、兵庫県内でも、また、全国でも同じ時期に集中しましたが、そのような中で、加東市では一人1台のタブレット端末の整備ができました。これについては、いろいろな苦勞もあったのではないかと思います。</p> <p>私は、以前学校に勤めていたのですが、離れてみて、加東市は子どものためになることをしっかりやっているといます。環境を整え、教職員がそれを生かしてその力を振るうことができていると。イベント的なことを打ち上げているだけでは、子どもの力はつかないと思いますし、そのことによって振り回されてしまい子どもの負担になってしまうことはよくあるのですが、加東市では、着実に環境を整え、方針を持って継続した取組をやっていただいております。</p> <p>ただ、これから3年先、5年先はどうなっているのかということ、維持費もそれなりにかかり、新たなものに更新する必要もあります。技術の進歩や社会の流れが速い時代、市単独ではなかなかその費用を確保していくことが難しいと思いますので、ぜひ、国や兵庫県に働きかけを行うことで、子どものため、環境が変わらず維持できるよう取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>それから、10年前の状況から比べると、学校では着実に進歩しているなど思います。例えば、各家庭に1台ピアノが配られたら、いきなりショパンやモーツァルトの曲が弾けるようになるわけではありませんが、環境を整えていただくことが大切になると思います。今回の場合、ICT支援員を各学校に配置し、教職員がいつでも気軽に分からないことを聞ける体制を整える。疑問点をすぐに解決できれば、授業での活用がより進み、教職員間の研究にも活用されるので、教職員への支援を考えていかないと、取組の推進は図れないと思います。</p> <p>ただ、確実に言えるのは、先生方は、本当に工夫した授業をされています。昔は、チョーク1本で授業をする先生が多かった印象ですが、教科によっては、教材研究がソフトを使うことによって進み、授業のやり方も大きく変わったなど感じています。これからも、将来を見据えた教育環境の整備をお願いします。</p> <p>最後に、いわゆるリモートやオンラインなどで子どもとつながることがありますが、やはり大切なことは、目の前の子どもをしっかり見ること、子どもたちの思いや願いをしっかりと見つめることです。流れに流されてしまうだけで、子どもたちの思いや願いを感じ取れなければ、いじめであったり、SNS上のトラブルであったり、様々な問題につながってしまうので、それらをしっかりと踏まえながら、取組を推進していただきたいと思います。子ども不在の論議にならないようお願いします。</p>
議長	<p>ハード整備の部分は、教育委員会事務局教育振興部が中心となって、ほかの市町に先駆けて、一人1台のタブレットの整備を実現しました。兵庫県で一括して整備するという話もあったのですが、それをしていて、整備がさらに遅れてしまうということで、加東市独自で調達を行い、早期の整備ができました。これは大きな成果であったと思っています。</p> <p>私は、先週、文部科学省に出向き、学校施設や教育環境の整備に関する助成について要望してきました。特に今回は、GIGAスクール構想は、国が推進していることなので、学校施設の整備の中の1つとして、5年後には端末の更新時期が来るので、そのときには、国がしっかりと財政支援を行うよう要望しました。</p>

委員	<p>これからも、国への働きかけについてはしっかりやっていきます。</p> <p>1点目は、先ほど話をしましたが、理科の授業で一人1台のタブレットを活用して授業をやっているのを見ると、子どもたちは、そういうものに対する対応が早いように感じ、関心を高めて授業に取り組んでいるのは、とても良いと思いました。ただ、先生方は、一度に全てを対応できるかというところ、そういうことを勉強するのに時間もかかるし、直ぐに対応することは難しいと思います。ICT支援員に協力してもらい、活用能力を高めていただきたいと思います。</p> <p>2点目は、プログラミング学習についてです。これからの取組になるとは思いますが、とても大事な学習だと思います。私は、子どもたちの自主的な学びを進めていくことにも、個々の理解を深めていくことにも、非常に有意義な学習だと思います。今後、こういったかたちでプログラミング学習が進んでいくのか、非常に興味を持って見させていただきたいと思っています。</p>
委員	<p>意見が重複しますが、パソコンを使用した授業は、やはり事前の準備が大変になってくるとは思います。先生方が、そういう時間をしっかり作られるよう、支援体制や環境を整えていくことが大切だと思います。</p>
委員	<p>兵庫県下でもICT教育の先進地として、加東市が進めてきた取組は、本当に誇らしいことだと思います。これから迎えるデジタル社会に生きる子どもをどう育てるのかわかるということについては、ICT機器を使うことも目的にしないと、デジタル社会に生きる子どもを育てるのは難しいと思います。とあるコマーシャル・メッセージで、人は毎日触れるもので視座を養うというものがありました。子どもたちも、毎日触れるもので自分の生きる方向とか、希望とか夢とかを養っていると思います。そういう意味で、毎日触れるからこそ力になり、ICT機器も同じだと思います。子どもは、新しいものや先端のものにとっても興味を持つので、家庭で使っているICT機器よりも学校で使っているもののほうが先端のものだからこそ学校で使いたい、そういう興味関心が沸いてきて、力がついていくのではないかと思います。莫大な費用がかかることは十分理解していますが、デジタル社会に生きる子どもを育てる上で大切なことだと思います。</p> <p>次に、事務局の説明の中で、ICT機器を使うことが目的ではないという話がありましたが、ICT機器で何をさせるのかということをも十分考えながら、ICT教育の推進に取り組んでいただきたいと思います。何でもかんでもICT機器を使えばよいというものではありません。コロナ禍なので、全校生が集まる機会を少なくするために、ICT機器を使ってオンラインで集会をしたという話がありましたが、例えば、卒業式や入学式で、その場に出席しないと味わえない雰囲気であったり、感覚であったりというようなものが、子どもたちの育つ中でたくさんあるので、そういうことも十分考慮しながら、よりよいICT機器の活用を進めてもらえればと思います。</p>
議長	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、私もいわゆるリモート会議というものを何回か経験しました。やってみると、臨場感がないというのか、会議に参加している人たちの反応や表情が見えてこない状況があり、会議が淡々と進んでしまう印象があります。発言している方の状況は見えるのですが、会議に参加しているほかの人たちの状況が見えてこないところがあり、こういった部分はどうしたものかと感じながら、これまで何回か経験をしてきました。</p> <p>また、いわゆる予算投下の話も出ていましたが、まちづくりの中で大事な事業だと思っています。一方で、まちづくりの中で大事な事業は、ほかにもあるので、バランスを考えながら、取り組んでいきたいと思っています。</p>

教育長	<p>話に出ているとおり、一人1台のタブレットを使うことが目的ではありません。子どもたちにどんな力をつけさせるのか、何を培うのかということが抜けていれば、教育の目的は達成できないと思います。</p> <p>具体的に、一人1台のタブレットを活用した授業を行うとはどんなものかという、個別最適化です。子どもたちがつまずいている状況に応じて、次に進んだり、後戻りしたりできるというのは、非常に有効であります。また、子どもたちそれぞれが考えたこと、思ったことを周りと共有し、認め合いながら協働的な学びができること、さらには想像力や思考力を高めていくことについて、非常に役立つものだと思います。そして、将来的に子どもたちがICT機器を活用し、生活そのものの利便性や有効性や協調性を高めていくところまで進むのではないかと思います。しかし、ICT機器の活用が教育の大部分を占めるということではなく、あくまでもツールとして活用を進めていきたいと思っています。</p> <p>現在、ICT機器を活用して個々につながっていけるSNS等がありますが、それだけが人と人とのコミュニケーションになっていくのかというと、そうではないだろうと思います。相手の息遣いであったり、表情であったり、言葉の語尾であったり、そういうことを直接的に感じながら人は人として成長していくと思います。しかし、これからの社会において、ICT機器は、欠かすことはできないこともよく理解しているので、上手に活用しながら、今後の教育を進めていきたいと思っています。</p>
議長	<p>この協議事項について、ほかに何か意見はありますか。</p>
議長	<p>ないようですので、この協議事項について終わります。 2つの事項について協議をいただきましてありがとうございました。</p> <p>4 その他 なし</p> <p>5 閉会</p>